

## ○ 単元「寄島の海を守ろう」（寄島小学校）

### 1 単元指導計画

#### 1-1 単元「寄島の海を守ろう」（全31時間）

担当者 吉川 幸枝 森 房江 遠藤 浩子

#### 1-2 単元設定の理由

##### (1) 子どもの実態

本学年の子ども（男子25名、女子36名、計61名）は、昨年度のわくわくタイムの活動「友達たくさん うれしいな!!」を通して、寄島町のよいところをしっかりと感じており、他の町の人にも、もっと寄島町を知ってもらい、よさを伝えたいと思っている。そして、寄島のよさの一番に「山と海に囲まれた豊かな自然」をあげている。中でも、海は他の町にはない寄島のよさであり、子どもは、潮干狩りや穴ジャコ釣りをして楽しんでいる。

しかし、海の側に住みながら日頃の生活の中で海と親しむ機会は意外と少ないのが実状である。「我は海の子」のように毎日海で遊び戯れるということは、まず無いと言ってよい。また、寄島は県内有数の漁港と言われながら、漁業に従事している家庭は、少なくなってきたおり、寄島の海についての知識や関わりは思ったよりも希薄である。

本年度になって、子どもは、社会科の「ごみの処理と活用」の学習から、ごみを減らしたいという意識を持ち、「寄島をきれいにしたい」という願いをもつに至った。そして、「命とくらしを支える水」の学習から、水の汚れに目を向け、「寄島の海はきれいなのか、汚れているのか」と身近な環境を見直そうと考える子どもがでてきた。

そこで、寄島の海に親しんだりクリーン作戦を行ったりすることで、寄島の海を見つめ直すことができるのではないかと考えた。

##### (2) 教師の願い

このようなところから、本単元では、まず寄島の海という自然と積極的に関わり、自然の素晴らしさや大切さを今一層実感してほしいと考え、今までの海水浴、潮干狩り、穴ジャコ釣り、バーベキューなどの体験に加え、新たにカヌー、ローボート、バナナボートなどのマリンスポーツ体験を通して、身近な自然の中で思い切り体を動かし豊かな自然を体感してほしいと願った。また、マリンスポーツ体験により、こんな楽しい体験ができるのは、町の人たちの熱意と努力のおかげであることに気づき感謝し、合わせて地域の人々の寄島の海によせる思いや願いにも考えを巡らせることができると思われる。（『内容系列表』環境3・4年 ア ウ）

次に、海岸のクリーン作戦を通して、拾ったごみの種類から海岸の汚れが自分たちの生活と深い関わりがあることに気づくとともに、身近な環境問題について知り、考えていきつけかけにしたいと考えた。また、海岸の生き物調べからも、寄島の海の豊かな自然を感じるとともに、愛着を持ち、かけがえのない自然を守っていこうという気持ちを持たせたい。（『内容系列表』環境 3・4年 ア イ）

同組合の人や役場の人たちに話を聞くことで、長い年月をかけて海の環境を守るために地域の人々が努力してきたことに気づかせたい。そうすることで、これからもきれいな海であってほしいと願い、自分たちも守っていこうという気持ちをもって、自分たちにできる方法を考え実践しようとする事ができると思われる。(『内容系列表』環境3・4年 ウ)

### 1-3 単元の目標

マリンスポーツ体験、海岸のクリーン作戦、生き物調べを通して、寄島の海がかけがえのないものであることに気づくとともに、寄島の海の特徴や地域の人々の工夫・努力や願いを知り、寄島の海を守るために、自分にできることを考え、実践することができる。

### 1-4 単元の評価規準

#### ○関心・意欲・態度

- ① 寄島の海について友達と協力しながら進んで関わったり調べたりしようとする。
- ② 寄島の海を守るために自分にできることを積極的に考えたり取り組んだりする。

#### ○思考・判断

- ① 寄島の海について考え、見通しをもって計画的・具体的に追求することができる。
- ② 寄島の海の特徴や地域の人々の海を守るための工夫・努力や願いを知り、寄島の海を守るために、自分にできることを考えることができる。

#### ○技能・表現

- ① 寄島の海について調べたことや学んだことを分かりやすくまとめたり、伝えたりすることができる。

#### ○知識・理解

- ① 寄島の海の生き物や現状について知る。
- ② 寄島の海に携わる人々や、寄島に生きる人々の海を守ろうとする工夫や努力、願いを知る。

1-5 学習過程と評価計画

学 習 活 動	支 援 (方法・内容)	評 価 規 準				評 価 資 料
		関意態	思考判断	技能表現	知識理解	
1. 寄島の海について知る 《14》 ①マリンスポーツを体験する。(7) ・体験する。  ・振り返る。  ②海岸のクリーン作戦を行う。(3) ・青佐・三郎海岸のごみを拾う。  ・振り返る  ③生き物調べをする。(3) ・三郎海岸の生き物調べをする。  ・ボランティア教師の話を聞く。  ④今までの活動を振り返り、海への思いをまとめる。(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄島の海の楽しさを体感できるように、十分に活動時間を取る。</li> <li>・ ボランティア教師と適宜声を掛け合い、安全面に配慮する。</li> <li>・ 感想を話し合ったりお礼の手紙を書いたりすることを通して海の楽しさやボランティア教師の寄島の海に寄せる熱意に気づくようにする。</li> </ul>	①				体験中の観察
			②			お礼の手紙
		①				ごみ拾いをしている場面の観察
			②			学習カード①
2. 寄島の海的环境について調べる。《9》 ①海のきれいさについて話し合う。(1)  ②寄島の海の手きれいさについて調べる。(7) ・調べる計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生き物の種類・名前特徴や数の記録、写真などを取り、後に生かせるようにする。</li> <li>・ ボランティア教師の話から海の生き物への理解を深め、寄島の海の現状を知ることができるようになる。</li> <li>・ 3つの体験をもとに寄島の海の手よさや汚れについて考えることができるように助言する。</li> </ul>	①				記録用紙
					①	学習カード②
					①	学習カード③
		①				話し合いの場面の観察
				①	学習カード④	

<p>・海の生き物や現状、ごみや生活排水との関係、地域の人々の工夫努力について調べる。</p> <p>③調べたことをもとに、海のきれいさについて話し合う。(1)</p> <p>3. 寄島の海を守るために自分たちにできることを考え、実行する。《10》</p> <p>①自分たちにできることを話し合う。(1)</p> <p>②自分たちの活動計画を立て、計画に従って実行する。(9)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的なクリーン作戦</li> <li>・生活排水を減らす取り組み</li> <li>・環境保全のための呼びかけ</li> </ul> <p>4. 単元全体を通して振り返り、作文を書く。《1》</p>	<p>・図書の本以外に町が出している冊子にも参考となる資料があることを助言する。</p> <p>・寄島の魚の種類や漁獲量の変化と海の汚れとの関係に目を向けて調べるように助言する。</p> <p>・地域の人々から話を聞くことで、寄島の海の現状や汚れの原因、海の環境を守るための人々の工夫・努力に気付くことができるようにする。</p> <p>・海はきれいなのか、汚れているのか、調べた事をもとに理由を付けて発表するようにする。</p> <p>・友達の発表や漁協の人の話を聞くことにより、海の汚れを改善するためにいろいろな人々が努力していることに気付き、自分たちも海を守るために努力しようという気持ちをもてるようにする。</p> <p>・前時の学習をもとに話し合い、ごみと水の両面から活動を考えることができるようにする。</p> <p>・どんな思いを伝えたいのか、どんな方法でできそうか話し合い、活動を決定できるようにする。</p> <p>・同じ思いをもつ友達とチームを組み、活動計画を立て、役割分担を明確にさせる。</p> <p>・計画に従って、常に活動を振り返りながら見通しをもって活動するようにさせる</p> <p>・調べたり聞いたりしたことを生かして、表現方法を工夫して分かりやすく伝えることができるようにする。</p> <p>・これまで集積したポスターを活用し、寄島の海への思いを書かせるようにする。</p>	<p>①</p> <p>②</p> <p>②</p> <p>②</p> <p>②</p> <p>①</p> <p>②</p>	<p>①</p> <p>②</p> <p>②</p> <p>②</p> <p>②</p> <p>①</p> <p>②</p>	<p>調べる場面の観察</p> <p>学習カード⑤(1)</p> <p>学習カード⑤(2)</p> <p>学習カード⑥</p> <p>学習カード⑦</p> <p>活動記録用紙 (寄島の海を守るためにすること) 活動時の観察 活動記録用紙 (活動計画・反省と感想)</p> <p>制作物</p> <p>作文</p>
---	--	--	--	--

1-7 評価基準  
学習活動

学習活動	評価基準	評価資料	評価	評価基準		
				A(3)	B(2)	C(1)
1① マリンスポーツを体験する。	関心・意欲・態度 ① 思考・判断 ②	体験中の観察 お礼の手紙	3種類のマリンスポーツに挑戦している。楽しかった感想、感謝の気持ちを書いている。	2種類のマリンスポーツに挑戦している。楽しかった感想、感謝の気持ちを書いている。	C(1) きまりを守れなかつたり、こわがったりして、支援がない。	
1② 海岸のクリーン作戦を行う。	関心・意欲・態度 ① 思考・判断 ②	ごみ拾いをしている場面観察 学習カード①	友達と協力しながら進んで、海岸のごみ拾いをしている。	友達と協力してごみ拾いをしている。	ごみ拾いはするが、分別ができない。	
1③ 生き物調べをする。	関心・意欲・態度 ① 思考・判断 ②	記録用紙	海に住む生き物を友達と協力して採取したり、調べたりしている。	奇島の海で見たり採りしよようとしている。	奇島の海で見たり採取した生き物の名前を1～3つ書いていく。	
1④ 今までの活動を振り返り、海への思いをまとめる。	知識・理解 ① 技能・表現 ①	学習カード② 学習カード③	ボランティア教師の話をもとに、奇島の海の生き物や現状が理解できている。	奇島の海に住む生き物の、海のよさを、問題点の全てを項目にメモしている。	メモできている項目がある。	
2① 奇島の海のきれいさについて話し合う。	関心・意欲 ①	話し合いの場面の観察	海での体験や自分の生活と関わりから、奇島の海のきれいさや汚れているのか、汚れているのか発表している。	進んで発表したり、意見を聞いて賛同を話し合っている。	話し合いへの参加ができていく支援がない。	
2② 奇島の海のきれいさについて話し合う。	関心・意欲 ①	調べる場面観察	計画にしたがって、進んで調べようとしている。	一つの方法を選んできて進んで調べようとしている。	進んで調べることができず、支援がない。	

<p>て調べる。</p>	<p>知識・理解 ①</p>	<p>香島の海の生き物や現状について、理解できている。</p>	<p>学習カード⑤ (1)</p>	<p>漁獲量や種類の变化、昔の海の汚れについて書いている。</p>	<p>具体的に調べることができず、書けない項目がある。</p>
<p>2 ③ 調べたことと海のきれいなことについて話合う。</p>	<p>思考・判断 ②</p>	<p>海はきれいなのか汚れているのか調べたことをもとに考えて書いている。</p>	<p>学習カード⑤ (2)</p>	<p>調べたことと海のきれいなことについて書いている。</p>	<p>調べたことと海のきれいなことについて書いている。</p>
<p>3 ① 自分たちで話合う。</p>	<p>知識・理解 ②</p>	<p>話し合いにより、海の汚れを改善するために地域の人や工夫・努力していることを理解している。</p>	<p>学習カード⑥</p>	<p>地域の人々の海を守るための工夫・努力を2つ書いている。</p>	<p>工夫・努力を1つしか書いていない。</p>
<p>3 ② 自分たちで話合う。</p>	<p>思考・判断 ②</p>	<p>いろいろな人々の工夫・努力を知り、海を守ることに自分たちでできることを考え、香島の海を守るために自分たちの活動に取り組もうと保全している。</p>	<p>学習カード⑦</p>	<p>こととを両面から考えることを書いている。</p>	<p>こととを両面から考えることを書いている。</p>
<p>② 自分たちで話合う。</p>	<p>関心・意欲 ②</p>	<p>香島の海を守るために自分たちの活動に取り組もうと保全している。</p>	<p>活動記録用紙に活動の振り返り(守ること・活動計画)の観察</p>	<p>自分の考えを進んで環境保全の活動している。</p>	<p>友達の声かけや教師の助言を受けて活動計画を立てている。</p>
<p>4 単元全体を通して振り返り、作文を書く。</p>	<p>思考・判断 ①</p>	<p>活動を振り返り、見直しをしながら計画的に活動を進めている。</p>	<p>活動記録用紙・反省と感想</p>	<p>毎時間振り返り、計画的に活動を進めている。</p>	<p>振り返りが十分に活動ができていない。</p>
<p>4 単元全体を通して振り返り、作文を書く。</p>	<p>技能・表現 ①</p>	<p>相手を意識して表現手段を選んだり、工夫をかける。</p>	<p>制作物</p>	<p>表現手段や方法を工夫して生活呼びか</p>	<p>表現手段や方法を工夫して生活呼びか</p>
<p>4 単元全体を通して振り返り、作文を書く。</p>	<p>思考・判断 ②</p>	<p>香島の海のよさや環境を守るために、これからの生活を取り組もうとしている。</p>	<p>作文</p>	<p>海を守るために、これからの生活の中を工夫・努力を1つ書いている。</p>	<p>これからの生活で取り組みが書けない。</p>

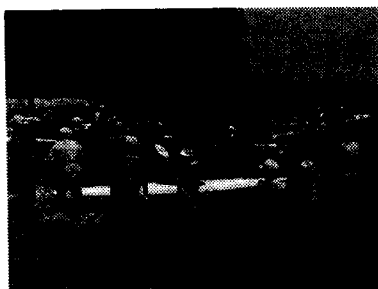
## 2 授業と評価の工夫

### 2-1 指導と評価の一体化の実践

学習活動1 寄島の海について知る。  
①マリンスポーツを体験する。

#### ①指導・学習の過程

寄島の三郎海岸において、ボランティア教師の指導のもと、カヌー、ローボート、バナナボートの3種のマリンスポーツを一日体験した。身近な自然の中で思い切り体を動かし、マリンスポーツを楽しみ、豊かな自然を満喫することができた。



マリンスポーツ体験

#### ②評価結果

マリンスポーツをしている様子の観察や体験後のお礼の手紙から評価を行ったところ、以下の結果となった。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度①	寄島の海でマリンスポーツを楽しもうとしている。	57人	4人	0人
思考・判断②	マリンスポーツの楽しさやボランティア教師への感謝の気持ちを書いている。	21人	37人	3人

#### ③指導の改善と実施

マリンスポーツ体験は、「自然に親しみ寄島の海に愛着をもってほしい」という願いのもと、こちらから投げかけた活動である。始めは怖がっていた子どもたちも、慣れてくると自分から積極的に活動するようになってきた。

また、気さくで熱心なボランティア教師は、子どもたちに分かりやすく楽しく指導をしてくださった。その結果、ほとんどの子ども（57人）が3種類のスポーツに挑戦し、楽しんで活動することができた。

そして、3分の1の子ども（21人）が、ボランティア教師への手紙の中に、感謝の気持ちをおりまぜて、書くことができた。

しかし、楽しく活動ができたことだけしか書けていない子どもが3人いた。その3人の子どもには、ボランティア教師とのかかわりを思い出すよう助言した。

学習活動1 ②海岸のクリーン作戦を行う。

①指導・学習の過程

子どもたちは、「寄島をきれいにしたい」という思いを当初からもっており、寄島の三郎海岸、青佐海岸のクリーン作戦を行った。それぞれ行きたい海岸ごとに5、6人のグループを作り、ごみ拾いを行った。また、グループごとに落ちていたごみの種類や量も調べ、記録用紙に記録し、表にまとめた。ごみは想像以上に多く、子どもたちが予想していなかった驚くようなごみも数多くあった。



海岸のクリーン作戦

活動後、拾ったごみは、学校に持ち帰り、ごみの種類や量を調べ両海岸を比較し話し合うことで、両海岸を訪れた人を推測したりごみと人々の生活との関わりを考えたりすることができた。話し合いの中で青佐海岸では、つりに関する落とし物、忘れ物や車で訪れた家族連れのものと思われるごみが多いこと、三郎では、船のエンジンや車のタイヤなどが海岸に打ち上げられていること、発泡スチロールやペットボトルなどはどちらにも多いことなどが分かった。

②評価結果

ごみ拾いをしているときの様子の観察や話し合いの後に書いた学習カードから、評価を行った結果、以下ようになった。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度①	友達と協力しながら進んで、海岸のごみ拾いをしようとしている。	49人	10人	1人
思考・判断②	ごみ拾いの活動を振り返って話し合いをし、自分たちのくらしとの関係を考えている。	30人	29人	1人

③指導の改善と実施

子どもたちの思いから行ったクリーン作戦では、ほとんどの子ども（59人）が進んでごみ拾いを行うことができ、友達と協力して分別をしながらごみを集めることができた（49人）。

また、ほとんどの子どもが分別を意識しながらごみ拾いを行ったので、話し合いでも活発に意見交換がなされ、生活との関わりを考えることができた（59人）。ごみ拾いをす

ことはしたが分別することを意識しなかった子ども（1人）は、話し合いの場面でもごみの量や種類に目が向かず、思考が深まらなかった。その子どもには、後でもう一度、みんなで拾ったごみの種類や量について考えるよう助言した。

話し合いの中で、人間がくらしの中で出した驚くほど多くのごみが海岸を汚していることに気付いた子どもたちは、昔より海が汚れているのではないか、海岸に住む生き物たちは大丈夫なのだろうかと考えるに至った。

学習活動1 ③生き物調べをする。

### ①指導・学習の過程

子どもたちは、マリンスポーツ、クリーン作戦の2つの体験活動を通して、「寄島の海はきれいなのだろうか。」という疑問を持つにいたり、海岸に住む生き物調べをすることになった。



生き物調べ

三郎海岸に行き、グループごとに生き物の種類や数を調べた。30分ほどの短い時間で、グループ全部で26種類もの生き物を見つけることができた。子どもたちは生き生きと活動し、名前のわからないものは、ボランティア教師に聞いたり図鑑で調べたりした。その後、自然保護委員でもあるボランティア教師から①寄島の海に住む生き物②寄島の海のおよ③寄島の海の問題点について話してもらい、学習カードに記録した。話を聞くことにより、子どもたちは、寄島の海の現状や生き物について理解を深めることができた。

### ②評価結果

グループの記録用紙に書かれた生き物の名前や活動の様子から関心・意欲・態度①、学習カードの記述より知識・理解①の評価結果を得た。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度①	海に住む生き物を友達と協力して採取したり、調べたりしようとしている。	35人	23人	0人
知識・理解①	ボランティア教師の話をもとに寄島の海の生き物や現状が理解できている。	30人	23人	5人

### ③指導の改善と実施

生き物調べはグループで行ったが、リーダーや生き物に関心の高い子どもを中心に協力して活動し、教師の予想より多くの生き物を岩場で見つけることができた（58人）。

ボランティア教師の話をよく聞いて、寄島の海の生き物や現状について十分理解できた

子どもが30人、だいたい理解できた子どもが23人であった。寄島の海のよさや問題点が十分理解できていなかった5人の子どもについては、次時の活動の振り返りの場面で十分時間を取り、しっかり支援することにした。

学習活動1 ④今までの活動を振り返り、海への思いをまとめる。

### ①指導・学習の過程

マリンスポーツ、クリーン作戦、生き物調べの3つの体験活動を振り返り、寄島の海のよさや問題点、海の汚れについて考え、学習カードに書き出すことにより、一人一人寄島の海について見直した。3つの活動を通して、子どもたちは寄島の海に積極的に関わることができた。マリンスポーツとクリーン作戦は一学期に行ったので、活動を思い出す意味から振り返りの時間を十分にとった。また、前時に理解が十分でなかった子ども（5人）がいたので、生き物調べでのメモについて発表する時間を取り、寄島の海のよさと問題点についてしっかり考えることができるようにした。

### ②評価結果

学習カードに書かれた内容から評価した結果は、以下の通りである。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
技能・表現①	今までの体験をもとに、寄島の海に対する思いを書いている。	45人	14人	0人

### ③指導の改善と実施

全員の子どもが寄島の海について知り、よさや問題点に気づくことができた。そして、4分の3以上の子ども（45人）が、寄島の海への思いを書くことができた。魚介類がおいしく自然が素晴らしい寄島の海をごみを少なくしてきれいな海にしていきたいという内容のものが多かった。よさや問題点に気づき寄島の海を再認識し、よりいっそう大切にしたいという願いをもつことができたと思われる。寄島の海への思いが書けなかった子ども（14人）も、前時よりたくさんよさや問題点に気付くことができた。

学習活動2 寄島の海的环境について調べる。  
①海のきれいさについて話し合う。

### ①指導・学習の過程

学習活動1の体験活動を通して得た寄島の海に対する思いや今までの生活経験をもと

に、「寄島の海はきれいなのか汚れているのか」という学習課題で話し合いを行った。

話し合いの結果、マリンスポーツができる、海岸の生き物が多い、自然保護委員さんから聞いた話などから、寄島の海はきれいだと予想するグループと、クリーン作戦でゴミが多かったことや生活排水との関わりから、汚れているのではないかと予想するグループに分かれた。そこで、きれいなのか汚れているのかもっと調べてみることにした。

## ②評価結果

話し合いは、体験をもとに活発に意見交換がなされ、ハンドサインも活用して、話し合いへの参加の様子を観察し、評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な 評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度①	海での体験や自分の生活との関わりから、寄島の海はきれいなのか汚れているのかの話し合いに積極的に参加している。	26人	32人	1人

## ③指導の改善と実施

海へ関わる3つの体験、社会科見学で得た知識、夏休みに出かけた各地の海との比較などから、子どもは、寄島の海のきれいさについて理由を付けて予想し、活発に意見を述べることができた。また、ほとんどの子どもが友達の意見を聞いて自分なりに考えることができ、今までの体験や生活と結びつけて、海がきれいなのか汚れているのか予想することができた(58人)。

話し合いへの参加ができにくかった子ども(1人)も、友達の発表をよく聞いて考えるように助言したことで、話し合いの後には、自分なりの考えをもつことができた。

学習活動2 ②寄島の海のきれいさについて調べる。

### ①指導・学習の過程

寄島の海はきれいだと予想するグループと汚れていると予想するグループに分かれ、それぞれにどんな方法でどんなことを調べるか話し合い、各自で調べる計画を立てた。

調べる内容は、ゴミ、生活排水、生き物(主に魚)について一番調べたいところから各自調べることにした。

方法としては、本・図鑑・町の冊子、インターネット、地域の人に聞く、漁業協同組合に行き行って聞くなどがあがった。中には、最初考えた方法では、いい資料が見つからず、漁協に聞きに行くことにした子どもも見られた。漁協で得た知識は、とても参考になるので、聞きに行った子どもからの報告会を設けた。また、家の人や親戚に漁業関係者がいる子どももあり、いろいろな人から聞いて得た知識も多かった。

ごみ、生活排水に関しては、社会で学習した浄化センターについてさらに調べたり、クリーン作戦を地域の人がしていることに気が付いたり、つりのマナーについてインターネットに載っているのを見つけたりするなど、社会での学習経験や生活経験からさらに広げて新しい事実を調べることができた。

## ②評価結果

関心・意欲・態度は、調べる活動の様子を毎時間観察して評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な 評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度①	計画にしたがって、進んで調べようとしている。	36人	21人	3人

## ③指導の改善と実施

子どもたちは、一番調べたい内容を選んで、それぞれの方法で調べることができた(57人)。一つの方法で、知りたいことがうまく調べられなかったり、さらに詳しく知りたいと考えたりした子どもたちは、また違う方法を選んで調べることができた(36人)。しかし、調べたい内容やどんな方法で調べたらよいか分からない子どももいた(3人)。その子たちとは対話を通して、自分の予想する立場をはっきりさせ、調べたい内容や方法を見つけることができるようにした。

いろいろな方法で調べることを通して、子どもたちは自分たちの生活と海のよごれのつながりについて、一層強く意識するようになった。また、調べていくうちに、自分と反対の立場を立証する理由を見つける子どもも出てきた。そのような子どもには、地域の人々の海をきれいにしよう、今よりも汚すまいという努力がたくさんあることに気づくよう教師が助言し、きれいか汚れているかということだけにとらわれすぎないように配慮した。

## ④評価結果

学習カードの記述から評価した結果は、下記の通りである。

評価の観点	学習活動における具体的な 評価規準	評価結果		
		3	2	1
知識・理解①	寄島の海の生き物や現状について、理解できている。	34人	26人	0人
思考・判断②	海はきれいなのか汚れているのか調べたことをもとに考えて書いている。	14人	38人	8人

## ⑤指導の改善と実施

半数以上の子ども（34人）が、インターネットや本・町の冊子、漁協の組合長さんや地域の人に話を聞くなどして、いろいろな視点で調べ、寄島の海の生き物や現状について理解することができた。しかし、なかなか知りたい情報を見つけることができない子どももいた（26人）。そこで、漁協の組合長さんに話を聞きに行った子どもから報告会を設けた。そして、漁獲量減少の原因、魚の種類の変化、のり養殖からカキ養殖への移行の理由、漁業に携わる人々の工夫・努力などについて、全員が新しい知識を得ることができ、寄島の海について深く理解することができたと思われる。

調べ活動を通して、海の汚れの原因やきれいにするための工夫・努力に気付いた子どもが14人、調べたことをもとに海のきれいさに再確認できた子どもが38人、調べ活動をする前と理由付けが変わらず、自分が調べたことをもとに海がきれいなのか汚れているのか再考察できにくかった子どもが8人だった。

その8人には、教師は、調べたことから新たにどんなことが分かったか個々に問いかけ、次時の話し合いで友達の意見をしっかりと聞いて考えを深めることができるよう支援した。

また、工夫・努力に気付いた子どもが14人と少なかったので、次の話し合いでは、工夫・努力に目が向くように支援することにした。

学習活動2 ③調べたことをもとに、海のきれいさについて話し合う。

## ①指導・学習の過程

「寄島の海はきれいか汚れているか」について、学習活動2一①の話し合いを踏まえ、調べたことをもとにそれぞれの意見を発表し合った。どちらのグループも、ごみ、生活排水、生き物（魚介類）について調べ、それぞれの立場から調べて分かったことを理由に発表し合った。

「海はきれいか汚れているか」については、一概に決められない問題であり、水のきれいさと海の豊かさでは多少意味合いも違ってくることから、学習課題ではあったが、あまりこだわらないようにした。ごみ、水の汚れ、生き物の3つの観点から話し合う中で、むしろ、人々の工夫・努力に目が向くようにした。

話し合いの中で、単にきれいさととらわれないように、人々の工夫・努力にふれている発表をできるだけ称揚した。また、工夫・努力カードを板書に提示することで、どちらの立場の発表にも人々の工夫・努力があることに気付くことができるようにした。その結果、どちらの立場の発表にも寄島の海を守るためにいろいろな人々が工夫・努力をしていることに気付くことができた。

そして、今の寄島の海のきれいさ豊かさは、人々の工夫・努力の結果であり、努力しないとすぐ汚れてしまうことにも気付くことができた。また、漁業協同組合の組合長さんの話（VTR）から、人々の努力で海の汚れが改善されてきていることも知り、地域の大人たちの工夫・努力にすごいと感心する子どももでてきた。



漁業組合長さん

## ②評価結果

話し合いの中で分かった海を守るための人々の努力・工夫について学習カードにまとめ、その記述から評価を行った。結果は、以下の通りである。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
知識・理解②	話し合いにより、海の汚れを改善するために、地域の人が工夫・努力をしていることを理解している。	44人	14人	2人

## ③指導の改善と実施

多くの子どもたちが海を守るために地域のいろいろな人々が様々な工夫・努力をしていることに気付くことができ、工夫・努力を3つ以上書けた子が44人、2つ書けた子が14人だった。

評価結果1の2人は、ごみのことにしか目が向いてないので、生活排水や生き物の面からも考えていくように助言した。

学習活動3 寄島の海を守るために自分たちにできることを考え、実行する。  
①自分たちにできることを話し合う。

### ①指導・学習の過程

学習活動2で取り上げた3つの観点(ごみ、生活排水、生き物)から、寄島の海を守るために自分たちにできることはないか話し合いをした。できることには、自分たちが実践することと周りの人たちに呼びかけることの2つについて考えが出された。実践することでは、「自分たちでクリーン作戦を行おう」「油を流さない。」「農薬や洗剤を使う量を少なくする。」「食器の汚れは紙で拭き取る」「食べ残しをしない」「小さい魚は逃がす」などが出された。呼びかけることでは、ポスターや看板、新聞やちらし、インターネットなどの方法で、ごみや生活排水のことを調べたことをもとに呼びかけたいという意見が多く出た。

### ②評価結果

話し合いをもとに、自分たちにできることを各自考えて学習カードに書き、それをもとに評価を行った。結果は、以下の通りである。

評価の観点	学習活動における具体的な 評価規準	評 価 結 果		
		3	2	1
思考・判断②	いろいろな人々の工夫・努力や願いを知り、海を守るために自分たちもできることを考えることができる。	31人	25人	3人

### ③指導の改善と実施

ほとんどの子どもが、海を守るために自分たちにできることを2つ以上書くことができた（56人）。ごみと生活排水の両面から書いている子どもは多かった（31人）が、ごみか生活排水の一方からしか書いていない子どもの中には、かなり強い思いをもって一方に絞って書いていると思われるものもあった。できることを具体的に書けなかった3人には、対話によりそれぞれの思いを引き出し、できることを見つけさせるようにした。

学習活動3 ②自分たちの活動計画を立て、計画に従って活動する。

### ①指導・学習の過程

前時の話し合いを受けて、自分にできることに取り組むことになった。家庭で一人一人が実践することの他に、呼びかけ活動とクリーン作戦については、友達と協力して取り組むことになった。まず、一人一人が、ごみ、水、つりのマナーに関するものの中から、自分が呼びかけようとすることを決め、呼びかける方法を考え、それから、同じ考えの友達とグループを作り活動計画を立てた（1時間）。そして、今までの体験や調べて分かったことをもとに、グラフや漫画、感想など表現を工夫して、ポスター、看板、新聞、ちらし、ホームページなどの制作に、2～5人のグループで取り組んだ（5時間）。



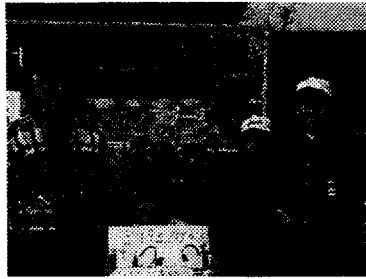
新聞などの制作

クリーン作戦については、全員で、1学期と同様、青佐海岸と三郎海岸の2カ所に分かれて行った（2時間）。同時に、作ったポスターや看板も持って行き、許可を得て海岸に取り付けることができた。



できた新聞、ポスター、ちらしなどは、学校内、地区の公会堂、お店、役場、福祉センター、漁業協同組合、ごみステーションなどに掲示してもらったり、家庭に配ったりして地域の人々に呼びかけることができた。（1時間）。

三郎海岸でのクリーン作戦



ポスターの設置



地区への新聞掲示のお願い

## ②評価結果

活動記録用紙の記述（すること・活動計画）と活動時の観察から関心・意欲・態度②を評価した。結果は、以下の通りである。

評価の観点	学習活動における具体的な 評価規準	評 価 結 果		
		3	2	1
関心・意欲・態度②	寄島の海を守るために自分にできることを考え、環境保全の活動に取り組もうとしている。	35人	25人	0人

## ③指導の改善と実施

前時（①の活動）で自分たちにできることを具体的に考えられなかった子どもが少数だだったので、環境保全についてのどんなこと（ごみ、生活排水、つりのマナー）をだれに呼びかけたいのかをまず決めさせ、同じ思いを持つ友達とグループを作らせた。そして、そのことを呼びかけるためにはどの方法が適しているか同じグループの友達と考えさせ、活動計画を立てさせた。その結果、全員が、自分で呼びかけたいことを決め、友達と相談して方法を選び、活動を進めることができた。9時間という長時間の取り組みも、個人の活動にせずグループでの取り組みにしたことで、どの子も途中で投げ出すことなく友達と協力して最後までやり抜くことができた。

## ④評価結果

活動記録用紙の記述（活動計画・反省と感想）から思考・判断①を評価した。結果は、以下の通りである。

評価の観点	学習活動における具体的な 評価規準	評 価 結 果		
		3	2	1
思考・判断①	活動を振り返り、見直しをしながら計画的に活動を進めている。	21人	37人	2人

### ⑤指導の改善と実施

活動計画に従って、子ども自身が常に活動を振り返りながら活動が進められるように、活動記録用紙に毎時間したことを記録し、次の時間の活動計画と今の進み具合を考えて、活動予定の修正が必要であれば記入させるようにした。カードに記入することで、今日することは何か、どこまで進めていけばよいのかなど見通しをもって活動を進めていく姿やグループで相談しながら協力して進めていく姿が見られるようになった（58人）。活動の振り返りが十分できなかった2人には、教師から、前の時間はどこまでできたのか、今日は何をするのかをたずね、見通しをもたせて活動をさせるようにした。

### ⑥評価結果

海の環境保全を呼びかけるためにつくった制作物（ポスター、看板、新聞、ちらし、ホームページ）から技能・表現①を評価した。結果は、以下の通りである。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
技能・表現①	相手を意識して表現手段を選び、調べたことをもとに工夫して環境保全の呼びかけをしている。	26人	34人	0人

どのグループも今まで調べてきたことや分かったことなどをもとに表現方法を工夫して、ポスターや新聞などの制作物を作ることができた（60人）。そして、地域の人々に環境保全を呼びかけることができた。そのうち26人は、調べたことをグラフや表にしたり、写真や漫画を効果的に使って、いろいろな視点で分かりやすく呼びかけることができた。

学習活動4 単元全体を通して振り返り、作文を書く。

#### ①指導・学習の過程

今までどんな学習をしてきたのかノートを読み直したり、発表し合ったりして振り返った。振り返る中で、寄島の海を守るために漁業に携わっている人だけでなく、地域の人々が工夫・努力を続けていたことを確認し、4年生の自分たちにもできないことがないかと考えて呼びかけ活動やクリーン作戦を頑張ったことを称揚した。そして、これからのくらしの中で、寄島の海を守るために工夫したり努力したりしたいことを作文に書いた。

#### ②評価結果

作文に書かれている工夫・努力していきいたいことから評価した。結果は、以下の通りである。

評価の観点	学習活動における具体的な 評価規準	評価結果		
		3	2	1
思考・判断②	寄島の海のおよさや環境を守るために、これからの生活のあり方について考え、取り組もうとしている。	23人	37人	0人

### ③指導の改善と実施

23人の子どもが、寄島の海を守るために生活排水やごみの視点からこれからの生活の中で工夫努力することを複数書くことができた。残る37人の子どもも、どちらかの視点で工夫努力していきたいことを書くことができた。

ポートフォリオをもとに今までの活動を振り返った後に書いた子どもの作文には、漁協の人、自然保護委員の人、地域の人などが、寄島の海を大切に思い、その環境を守るために努力を続けていることへの感謝の念、同時に自分たちも寄島の海を守っていかなければならないという思いが書かれていた。また具体的な行動として、生活の中でのごみの減量や水を汚さない工夫、クリーン作戦に積極的に参加したいことや、つりのマナーに気をつけたいことなどが書かれており、自分たちも今まで以上に海の環境を守ることを意識して生活していこうという気持ちが表れていた。

そして、子どもによっては、寄島の海に対する見方が深くなっているのが感じられた。単にきれい汚れていると捉えるのではなく、見方によってきれいだと言えたり汚れていると言えたりすること、それには、深く人が関わっていること、寄島の海には、すばらしさと問題点があることなど子どもなりにとても深く考えていた。この学習を通して、子どもたちは、寄島の海への愛着がさらに増したように思われる。

## 2-2 自己学習力の向上に向けた評価の工夫

### (1) 学習中におけるポートフォリオ等による学習の振り返りと事後活動の検討

本単元全体を通して、子ども達は1冊のノートに調べたことを記入したり学習カードを貼り付けたりした。そして単元が進むにつれ、ポートフォリオは増え、活用する頻度も高くなった。

～活用頻度が高かった場面～

- 1④「今までの活動を振り返り、海への思いをまとめる」場面
- 2②「寄島の海のおよさについて調べる」場面
- 3①「いろいろな人々の工夫・努力を知り、海を守るために自分たちもできることを考える」場面

### 3②「自分たちの活動計画を立てて、計画に従って活動する」場面

#### 4 「単元全体を通して振り返り、作文を書く」場面

特に本単元最後の4の活動では、どの児童も自分のノートを読み直し、学習したことを確かめていた。自分たちが調べたこと、活動を行っての感想などを振り返ることにより、今まで以上に寄島の海の環境を守ることを意識して生活していこうとする気持ちが芽生えてきていた。

また、3②の活動では記録用紙を用いて子ども達に事後活動の検討を行わせた。毎回、次の時間の活動計画と進み具合を考えて活動予定の修正があればする方法をとった。加えて、毎回反省・感想を記入し、自己評価も3段階で(◎○△)行わせた。

下記の資料は、A児の活動記録用紙である。初回は、自分達で活動計画を立てることに少し戸惑っているようだった。しかし、計画を詳しく立てることも加えて指導すると誰が、どのくらい進んでいるかということがよく分かり、一人ひとり責任を持って活動できていることがこの活動記録用紙からもうかがえる。そして、計画通り活動が進んでいけば、達成感・成就感を感じ、生き生きと活動が行われていると思われる。

また、自己評価は、活動が計画通り行われたかどうかに対して3段階評価をするようにした。この活動記録用紙を見ても分かるように、その日に行う予定の半分ほどしかできていない時は、○が付いている。その後は、活動の見直しを行い、計画通り順調に行われたので◎がつけてある。

この方法で、ほとんどの児童がその時間にする活動が明確になり、時間を有効に使って仕上げようとやる気を見せていた。このやり方は、4年生では、初めて経験するものであった。よって説明後、記入するのに時間を要した児童も多くいた。しかし活動が進むにつれ、修正の仕方や反省の記入の仕方を理解し、スムーズに事後の活動について、グループ毎に検討することができた。

活動記録用紙 「青島の海を守ろう」  
4年

組 番 ( )

時間	活動計画 活動の見直し	どんな活動をしましたか	反省・感想 (計画通りできましたか、◎、○、△)
	青島の海を守るためにすること ◎内容 ごみ・水のよごれ ③中くらいは新聞に書く ④学校内の人 ⑤はる所はけたばこ 準備物や材料など ・もようし ・あたら写真 ・しんぱん(油つき) ・キチンペーパー(じゆつぎ)		あたら
1 11 /14	自分のすること をいっしょに考える。	4人のグループでごみ・水のよごれ・お家人に知らせることをもとづいて書いてくつば(学校)にはる。	初めてやったことだけどみんな意見がまとまったのでスムーズにすすんだ。(◎)
2 11 /20	くわしい計画を立てる。	計画を全部決めた。	ひろ子先生にアドバイスをもらったけどみんなできてきた。(◎)
3 11 /27	わりつけを一ずつ考える それをとりに考える	ゆう子(写真) みつき(クラフ) みずき(?) さき(?)	まだ半分もできていないので急がなきゃ。(○)
4 11 /26	ぶんたんを決めて しんぱんをまわす わりつけつぎ	ゆう子(写真) かりつけ出た。 みつき(クラフ) 清書始める。 みずき(四コマ)(文章) さき(ワズツク)	まえてきていない所もおわってどんどんすすんでいっている。しんぱんにすすんでいる。(◎)
5 11 /26	下書きの続き 清書をまき始める	〃	分組して一人一人ががんばってがんばる。完成が楽しみ!! (◎)
6 11 /28	せいしりつつき 出来あがり	せいしりつをできるところまでやった。	もうだいたいできているけど写真はまたないのでもう少し時間ひつよう。(◎)
7 12 /6	海岸クリーン作戦 新聞はり ちんぱんと分けてひろう。		( )
8 /	前よりもたくさんひろう。 どうせひろうとあるのを見ながらごみをひろっていく。	ごみをさぶらうてたくさん取った。	思ったよりさぶらうてはごみがたくさんあちていた毎日たくさんのごみを取るさかど。(◎)
9 12 /	こうしゅうする ポスターをはる。	ひろ子先生にたのんで全校のみんなに見てもらうために1階のくつばこにはらしてもらうようにした。年人ではりにいった	はておくと帰りみんなが見ていたのとてうれしかった。みんなが毎日きれいにするめがかりのことを守ってほしい。

ごまんに仕掛

## 2-3 外部への説明責任に向けた評価の工夫

### (1) 単元の総括的評価結果

本單元における観点別の総括的評価は、「関心・意欲・態度」については学習活動2-②と3-②の総和で、「思考・判断」については学習活動3-②と2-②, 4の総和で、「技能・表現」については学習活動3-②の評価結果から、「知識・理解」については学習活動1-③と2-③の総和で行うことにした。

なお、考察に際しては、評価結果3は80%以上相当、2は60%~79%相当、1は59%以下相当の達成状況としてみなすことにした。

#### ① 「関心・意欲・態度」について

観点(評価場面) \ 評価基準	3	2	1	合計
関心・意欲・態度① (学習活動2-②)	36人	21人	3人	60人
関心・意欲・態度② (学習活動3-②)	35人	25人	0人	60人
①+②	71人	46人	3人	120人

表より、関心・意欲・態度「①+②」で「3」の評価の子ども71人(59%)は、いろいろな方法で進んで寄島の海について調べたり、その環境保全のために自分にできることを考えたり、取り組んだりすることができたといえる。また、評価結果「2」の子ども46人(38%)は、寄島の海について調べたり、その環境保全のためにできることを友達と一緒に考えたり、取り組んだりすることができたといえる。

このように、評価結果2以上は全体として117人(98%)であり、本單元における関心・意欲・態度の形成は効果的であったと考えられる。

なお、関心・意欲・態度「①+②」の評価が「1」の子ども3人(3%)は、調べ活動の過程で、何を調べたら自分の考えの理由付けができるのかわからず、教師の支援が必要だった。支援の結果、この3人の子どもも、調べたことを基に、寄島の海の環境保全のために自分にできることを考えたり、取り組んだりすることができた。

#### ② 「思考・判断」について

観点(評価場面) \ 評価基準	3	2	1	合計
思考・判断① (学習活動3-②)	21人	37人	2人	60人
思考・判断② (学習活動2-②)	14人	38人	8人	60人
思考・判断② (学習活動4)	23人	37人	0人	60人
①+②	58人	112人	10人	180人

表の結果から、「思考・判断①」について評価「3」の子どもが21人(35%)、「2」の子どもが37人(62%)おり、ほとんどの子ども58人(97%)が寄島の海の環境保全のための活動を計画的に進めることができた。これは、活動記録用紙にその日に実際にしたことと反省・感想を毎時間記入して活動を振り返り、次の時間の計画と照らし合わせ、計画を見直しながら活動を進めたことによる効果であると思われる。

学習活動2-②では、海がきれいと思うか汚れていると思うかの根拠を調べた。しかし、評価結果「3」が14人(23%)であり、他方「1」が8人(13%)いたことから考えれば、「海がきれいか汚れているか」については、一概に決めることができない問題であり、調べる中で人々の工夫・努力に気づくことは4年生の思考の段階ではやや難しかったようである。

学習活動4については、全員が評価結果「2」以上であり、子どもは寄島の海の特徴や地域の人々の海を守るための工夫・努力や願いを知り、寄島の海を守るために、これからの生活の中で自分にできることを考えることができたといえる。

このようなため、思考・判断全体としてみると、評価結果「2」以上が170人(95%)であり、本単元における思考・判断力の向上は満足すべきものであったと考える。

### ③ 「技能・表現」について

評価基準 観点(評価場面)	3	2	1	合計
技能・表現① (学習活動3-②)	26人	34人	0人	60人

表より、全員が評価結果「2」以上であった。子どもたちは、マリンスポーツ、海岸のクリーン作戦、生き物調べの3つの体験から感じたことと、自然保護委員、漁業関係者、地域の人から聞いたり、自分で調べたりしたことから、寄島の海の環境を守るためには、自分たちも努力していくが、人々の協力も得なければ守れないと思い、呼びかけるための制作物づくりに意欲的に取り組むことができていた。特に、地域に住む専門的な知識をもった人から話を聞くことで、子どもたちは、寄島の海や漁業の現状を知ることができ、また、その人々の海を守ろうとする思いも感じ、そのことを伝えようとしていたと思われる。本単元は技能・表現力の向上に効果的であったといえよう。

### ④ 「知識・理解」について

評価基準 観点(評価場面)	3	2	1	合計
知識・理解① (学習活動1-③)	30人	23人	5人	58人
知識・理解② (学習活動2-③)	44人	14人	2人	60人
①+②の人数	74人	37人	7人	118人

上の表の結果から、「知識・理解①」では53人(91%)の子どもが評価結果「2」以上であり、このため、実際に海岸で生き物調べをした後に、ボランティア教師の話を開

いたことにより、寄島の海に住む生き物、寄島の海よさ、寄島の海の問題点を理解することができたと考えられる。

また、「知識・理解②」では58人(97%)の子どもが評価結果「2」以上である。自分が調べたことをもとに「寄島の海はきれいか汚れているか」を話し合うことを通して、寄島の海のきれいさや豊かさを保とうと、いろいろな立場で人々が工夫・努力していることを理解することができたといえよう。

このため、全体としても評価結果「2」以上は111人(94%)であり、知識・理解の獲得における学習効果は高かったと考えられる。

## (2) 個人内評価結果

次に、A児、B児、C児、D児の四名を事例にしながら、個人内評価の特質について検討することにする。そのため、まず、4人の児童の〈個人評価結果表〉を示すと、次のようである。

〈個人評価結果表〉

		学習活動1	学習活動2	学習活動3	学習活動4	評定
A児	関心意欲態度		3	3		A
	思考・判断		2	3	3	A
	技能・表現			3		A
	知識・理解	3	3			A
B児	関心意欲態度		2	3		B
	思考・判断		2	3	2	B
	技能・表現			2		B
	知識・理解	3	3			A
C児	関心意欲態度		2	2		B
	思考・判断		1	2	3	B
	技能・表現			2		B
	知識・理解	2	3			B
D児	関心意欲態度		2	3		B
	思考・判断		1	2	2	B
	技能・表現			2		B
	知識・理解	1	2			C

注：評定は、総括的評価結果に基づき、Aは80%以上相当、Bは60%～79%相当、Cは59%以下相当の達成状況であることを示している。

### ① 縦断的評価

A児においては、学習活動2における思考・判断の評価が「2」だった以外は、どの学習活動場面においてもすべての観点が「3」という高い達成度を示している。なお、評価「2」であった思考・判断も活動が進むにつれて「3」へと向上している。このため、4観点ともAとなっている。

なお、A児と類似の傾向を示す子どもは学年で他に9人いた。

B児は、知識・理解で学習活動1,2とも「3」という高い評価結果を得ている。反面、他の3つの観点は、思考・判断の2→3→2という評価結果に見られるように、評価結果「2」と「3」の間を行ったり来たりしており、評定も「B・B・B・A」となっている。

なお、B児のように、知識・理解が他の観点到比べて優れている子どもが学年で他に7人いた。

C児は評定がすべてBであるが、学習活動を通じて4観点とも評価結果「2」が多くなっている。

なお、類似の傾向を示す子どもが学年で他に8人いた。

D児は、ややC児と類似の傾向にあるが、中でも知識・理解に難点がみられる。評定も「B・B・B・C」である。

なお、D児のように、知識・理解の達成ができにくかった子どもが学年で5人いた。

なお、学年全体の傾向として、関心・意欲・態度がAの子どもは他の3つの観点のどこかにAが付くことが多く、4観点ともすべてAの子どもも含めると、そのような児童は学年全体で22人にいた。

### ② 横断的評価

A児は、思考・判断では、2→3→3と伸びながら安定しており、このため、評定も3であった。また、他の観点も3→3と高く安定して推移している。

B児は、評定はBながら、関心・意欲・態度と思考・判断で2→3という伸びを示している。

C児は、知識・理解が2→3と伸び、また、思考・判断も1→2→3と活動を重ねるごとに伸びていることが伺える。

D児においては、関心・意欲・態度、思考・判断、知識・理解の3つの観点で伸びが見られる。

なお、学習の進行につれて伸びが見られた子どもは、学年全体では、関心・意欲・態度面で13人、思考・判断面で22人いた。また、知識・理解では20人いた。反対に、下がった子どもが、関心・意欲・態度では10人、思考・判断では10人、知識・理解では5人いた。